



2006年3月3日

## ロールス・ロイス製 RTM322 エンジン搭載の MCH-101 ヘリコプター初号機を海上自衛隊に納入

民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、ロールス・ロイス製 RTM322 エンジン搭載のヘリコプター MCH-101 初号機が本日、海上自衛隊に納入されたと発表しました。

RTM322 エンジンは、ロールス・ロイス・ターボメカ社（以下「RRTM」）\*と川崎重工業株式会社（以下「川崎重工」）とのライセンス契約に基づき川崎重工が製造、テスト、修理、オーバーホール全般を請け負うことになっています。川崎重工製 RTM322 エンジンは、すでに 2005 年 10 月、海上自衛隊へ納入されています。

「RTM322 Mk250S」エンジンが搭載された MCH-101 ヘリコプターは、この後、海上自衛隊により飛行テストが開始される予定です。

式典に出席したロールス・ロイス社日本支社長リチャード・ソーンリーは次のように述べています。「このたび、世界でもトップクラスのエンジンの一つ、RTM322 エンジン搭載初号機 MCH-101 が予定通り納入されたことは、川崎重工と RRTM の強固な協力関係をより一層押し上げることと大変嬉しく思っています。今後も川崎重工と共に、海上自衛隊に最高水準のサポートを提供できるよう努めてまいります。」

また、RRTM プログラム・マネージャー、ミリアム・ライアンは次のように述べています。「最高クラスのヘリコプターを製造するため、サプライヤーにとって、個々のお客様のニーズに的確に応えられるよう最高のリソースを確保することがキーとなります。このプロジェクトでは、卓越したパートナーの皆様に支えられて世界最高級のエンジンを提供できたことを大変誇りに思います。」

川崎重工業の航空宇宙部門は MCH-101 航空機の製造も請け負うことになっています。

以上

### ご参考

1. 川崎重工業とロールス・ロイスは、40 年の間、緊密な関係を構築してきました。その間には、Olympus、Tyne、Spey、RTM322、CTS800・501 といったガス・タービン・エンジンの製造およびオーバーホールでの協力関係を築いてきました。また、ロールス・ロイスの RB211 および Trent 500/700/800/900/1000 のエンジン・ファミリーのリスク収益分担パートナー（RRSP）にも加わっていただいております。財団法人日本航空機エンジン協会（JAEC）を経由して、V2500 エンジンのパートナーといただいております。

\* ロールス・ロイス社と仏ターボメカ社の 50%・50%合弁会社です

2. 日本の海上自衛隊は、EH101 ヘリコプター用として RTM322 エンジンを選択いただいた世界で 5 番目の納入先です。RTM322 エンジンは、現代の中型ヘリコプターをリードするエンジンとして、とりわけ、海上での用途先に選定されています。これまでの RTM322 エンジンの納入先としては、英国海軍、空軍による EH101 ヘリコプターに選定されています。他には、ポルトガルとデンマークでも EH101 用として RTM322 エンジンが選ばれています。
3. これまでに NH90, AH Mk1 アパッチ、EH101 ヘリコプターに採用された RTM322 エンジンは、確定受注、オプション受注を含めて約 1,500 台になります。
4. 現在の掃海輸送および南極支援ヘリコプターは、RTM322 搭載 EH101 ヘリコプターに取って代わる予定です。